

近世畸人傳

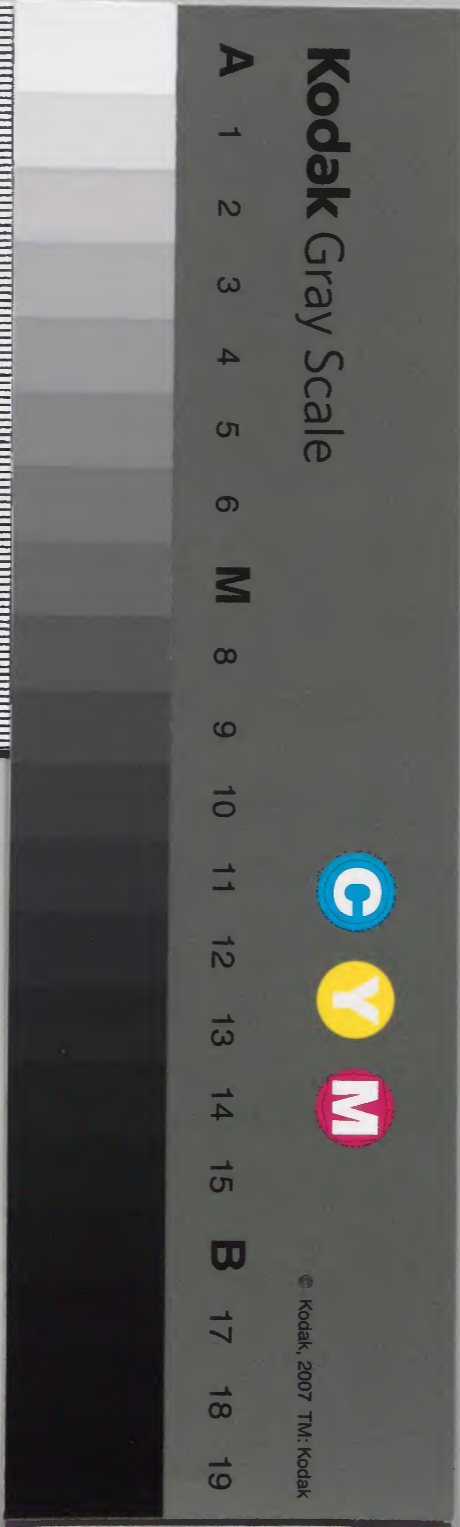
和書門			
一六〇〇一	一四〇一	一一四六	一〇〇六
類	號	函	架
冊	架	函	號

150

內閣文庫	
五八	六〇
函	架
一	一
架	冊
類	號

傳記
三ノ二

內閣文庫	
番號	和 16001
冊數	10 (1)
函號	158 150



信香

歸書

畸人傳序

町田久國耀之章

鷓居穀食以頤志。牆東竈北不與藪澤
 其趣而不以高逸自處。推拍輓斲與物宛
 轉肆情坦率不自檢括而非所謂任誕也。
 冥外以護內雖不為同異亦有所不為而
 非所謂狷介也。或才藝絕人而不求售於
 世。土木形骸樸野如愚或經術吏才取仕
 於封君而行藏不物以規矩夫謂之獨行

乎曰非也。稱之卓行乎曰非也。其人固非
四科之屬。其行不可以一端指名。不得已
而強題之曰畸人。畸者何曰畸者奇也。其
間有儒而奇者。有禪而奇者。有武弁而醫
流而詩歌書畫雜伎家而奇者。要皆為一
奇。所掩人不復知本分為何人。故概以畸
人目之。云態生世純好奇之士也。從近世
上邇勝國得所謂畸人者數十。負貳狀而

序一

傳之自歎于聞見不廣。詢諸伴蒿蹊氏。蒿
蹊氏曰。余之素志也。余既裒次至若干人。
請合而一之。態生善畫。乃冥搜貌神。其於
服飾器用。亦皆原其代所尚。而一筆不苟。
下蒿蹊氏以國語為文。宏贍簡遠。妙盡情
態。頗似臨川王形容晉人。夫其人既以畸
稱之。固弗求聞達於當時。豈復屑乎自
圖不朽者耶。大約羊代浸遠。聲迹湮晦者

十七八。二子其奚自而得之也。蓋就其官地鄉閭跡之。或訪之。身孫遺友。或得之。其隻事于敗冊蠹簡。百方蒐羅。鑽燧屢改。而後就緒。且其事必覈實。其言必有根。至於好事者。自後附益增長者。概乎。每取焉。視之。彼顯人名流之宗系。言行。粲然可臚列者。則勞逸為何如也。一日。蒿蹊氏以首簡授余。謁序。余曰。此範世矯俗之書也。請急。

序二

傳之。或雜曰。若人之畸也。是惟性分。所至固非學。而可企矣。詎可以為範乎。曰。不然。以余觀之。凡此諸人。率性而動。名求其志。其迄雖或失中行乎。至乎其不屑於當世之名利。則一揆耳。故雷霆之琴。火成之鏐。自然成趣。非待繩削而然也。夫經籍文綵。足以黼黻治具者。一技一能。通乎精微之蘊者。幅巾塵尾。鉅、備、談性理。而折天。

人之際者。曲柔拄杖。講經論據。巨利者。世
固不乏其人。而大抵與古之聖賢其骨格
終不相類者。何也。唯名之與利為之崇也。
嗚乎。此數者。皆人之所甚難。然而遺名利
之難。又有甚焉。則名利之累人也。豈特焚
車攫金之類而已哉。莊周有之。曰彼其所
殉。仁義也。則俗謂之君子。其所殉。貨財也。
則俗謂之小人。有味乎其之也。今觀傳

序三

中之人。其於古之人也。未知如何。然已有
典刑存焉。故其流風餘韻。猶足以使夫貪
婪躁進之士。一披其卷。赧然自省。幡然易
操矣。謂之範世矯俗之書。不為過也。若
夫施其貌。蠟其言。外遺名利。而內以為名
利之鉤者。乃此書之罪人也。寶鑑既懸。而
妖魅無遁形焉。序而勸其傳。不亦宜乎。

寶鑑既懸而妖魅無遁形焉序而勸其傳不亦宜乎

と申曰然り志るれどもおのれが福をるところのさし
ふりたふくふりくはるへけし居るくはるれを
此中平しくハ書きたる大指筆乃くくひハ子
いふゆる一家の時人し仁義を仕とせる徳をたはる
ハ数子のこもハ世乃人よきくへて行かざる
きとちのこもハ世乃人よきくへて時
甲るを志れざる侑のちと獨りた人あらん
まきとといふへくはれハおのれが沈酒服ふはの
たをこもせらるが奇とらんおれバすこおのがどお人よ
えをこもやといふこり人ハこの志とともてあ
くとしい影を不員くの指と員もすく詩せはる
あふり又詠曰志るあれど此中志を破らんそ

おのれし志とわれで志を破らんそおのれははれ奇
またまひもすくといふくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
笑ふとこ玉を浪清りたれと物も一奇しはれ
一奇し志ひて繩をとりておのれはくくくく
凡流にたはるくくくくくくくくくくくくくくくく
切利の身今ハ世をくくくくくくくくくくくくく
奇詠の一集りし所をくくくくくくくくくくくく
○この傍の傍乃び詩が古魚の名ある一奇
乃びくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ほくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
入らずに世を乃にはあはれくくくくくくくく

第二卷

三宅尚齋 附末出

米屋与衣衛門

寺外玄溪

小野古秀和妻 指秀和此

秀和此

遊女大橋

石野権兵衛 同市兵衛

賣茶翁

北村篤所

岡 周陸

僧 鐵眼

内藤平九衛門

大石氏僕

尼 破鏡 附由

遊女某尼

隱士石卧

江村專齋 附由

西生永濟

青木長應

僧別首座 中倉忠宣 附山中寺人

第三卷

隱士長流

荷田春滿 附性在滿 門人加茶其間

佐田儀兵衛

山科農丈 附科中五名

加嶋宗叔

長崎織人

僧 圓空 附由

僧 契冲 附介并此間 附由忠齋

挑山隱者 附由忠齋

子車翁

金蘭齋

文展狂女

相者龍袋

森金去

僧佛行坊

僧浦蓮

第四卷

柳澤湛園

求大雅僧

手嶋堵庵

北村依庵

土肥二三

右田見身附信元定

僧日初

池大雅附善山氏

高橋圖索

久野奇景

豊澤長著

明人傳卷之一

中江藤樹

附著山氏

藤樹中江氏、澤系、字惟命、名之、在、
 郡、小、川、邑、人、父、藤、樹、下、小、寺、
 寺、の、ま、ま、に、し、り、し、り、と、好、ま、
 瓜、投、る、る、と、し、り、し、り、と、
 九、葉、の、時、に、受、取、る、と、し、り、
 付、入、に、受、取、る、と、し、り、
 一、の、大、舟、に、藤、樹、様、大、師、の、
 あり、う、は、り、し、り、と、し、り、

世にぞとて思ひては、
鹿幸王とて遷化せ入るも、

七十一餘年一杖哉、
嘆、真、帰、後、作、夢、生、鷹、幸、月、白、風、結、三、

備、

備、
は、修、白、夢、修、後、文、の、著、述、不、修、紀、事、一、心、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

傳、真、の、心、結、亦、尚、も、
傳、真、の、心、結、亦、尚、も、

時、



向東疎拙之良諫身之竹在傍也佇中
 庭幽苦悅也
 回風一陣冷
 夕試最寂然
 各去當了身一補題
 官身

